



青森県の地域国際化の取り組み ～韓国・台湾・アメリカとの国際交流を通じて～

青森県観光国際戦略局誘客交流課

青森県は、本県が持っている地域資源の魅力を活かし、さまざまな国際交流事業を積極的に展開してきました。ここ数年、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、対面での交流が難しい時期が続き、オンラインでの交流を余儀なくされていましたが、2023年度は新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが第5類に移行したこともあり、コロナ禍以前のような対面での交流を進めていくことが可能となってきました。2023年度はさまざまな対面での国際交流の取り組みが再開しつつあるので、この場をお借りして、紹介いたします。

大韓民国・済州特別自治道との交流

青森県と済州特別自治道（済州道）とは、2011年12月に友好交流協定を締結し、その約5年後となる2016年8月に姉妹提携協定を締結しています。この協定に基づき、行政間交流のほか、さまざまな分野での交流が進められてきました。その1つが世界遺産交流です。青森県の白神山地のように、済州道では漢拏山と島内にある溶岩洞窟群が世界自然遺産として指定されています。2023年は白神山地が世界遺産登録30周年の年に当たり、7月には記念式典を開催したところです。この式典に済州道から国際交流の担当局長や世界遺産関係者が青森を訪問し、白神山地世界自然遺産登録30周年をとも



済州道の皆様と白神山地内をガイドとともに散策している様子

にお祝いしていただきました。式典では済州道の世界遺産の保護と活用の事例を紹介していただくなどにより、国際的な式典とすることができました。

◎タムナ文化祭参加

2023年10月、済州市内でタムナ文化祭が開催され、ここに本県の伝統芸能団体として津軽手踊りの団体が招待されました。タムナ文化祭の間に、パレード参加やステージでの公演を行い、唄、津軽三味線、手踊りを披露しました。韓国はもちろんのこと、中国やモンゴルなどの海外からの団体が参加していましたが、日本からの参加は青森県だけとなっていて、参加者は日本代表の気概を持って公演したそうです。また、さまざまな海外の演者に交じって、自分たちが長年かけて修練してきた伝統芸能を国際的な舞台上で披露できたことは、貴重な経験となったとの感想も参加者から聞かれました。コロナ禍でなかなか発表の機会に恵まれなかった文化・芸能の世界ですが、済州道との国際交流の取り組みを通じて、国際的な発表の機会を創出することができました。こうした取り組みは本県の文化・芸能活動の発展にもつながるものと考えています。



タムナ文化祭の会場にて、青森県の代表的な伝統芸能のひとつである津軽手踊りを披露

台湾・台中市との交流

台湾・台中市との交流については、青森県と平川市の三者で友好交流協定を締結しており、産業、文化、スポーツ、教育など幅広い分野における交流を推進してい

くこととしています。台中市との交流で2023年に再開されたのは、行政の交流と温泉交流です。



台中市政府、温泉観光協会関係者が平川ねぶた祭に参加

◎温泉交流事業

青森県は温泉湧出量147,024(L/分)で全国第4位、温泉地数は124か所まで全国5位となっており、酸ヶ湯温泉が国民保養温泉地に指定されているなど、温泉が県内各地に豊富にあり、県民の憩いの場となっており、重要な観光資源となっています。また、台中市にも温泉を核とした有名な観光地があることから温泉をテーマにした交流が行われています。

2023年8月には台中市政府の幹部と台中市温泉観光協会の関係者が青森県庁と平川市役所を訪れたほか、交流をしている平川市の平川ねぶたに参加したり、県内温泉施設の視察を行ったりしました。コロナ禍で制限されていた台中市の方たちとの直接の触れ合いは、お互いの距離をグッと近づけるものになりました。



青森県庁、平川市、青森県温泉協議会が台中市温泉祭りへ参加

2023年10月には青森県側が台中市温泉祭りへ赴きました。台中市関係者の温かいおもてなしに圧倒されながら、温泉施設の見学や料理人交流、台中市の伝統的な

お菓子の創作体験など充実した体験交流を行うことができました。台中市温泉祭りのオープニングセレモニーではポスター展示やパンフレット配布を行い、青森県、平川市、温泉施設のPRを行うこともできました。

参加者からは日本の温泉業界ではなかなか見られない温泉旅館業界、手土産業界、食器業界と温泉観光に関わるさまざまな業界が一緒に行動している姿を見て、台湾と日本との産業界同士のつながりの違いを感じることができたと、異文化理解につながる感想も聞かれました。

アメリカ・メイン州との交流

本県とメイン州は、1889年に青森県津軽半島の日本海沖で発生したチェスボロー号遭難救助事件による歴史的な縁があり、1994年5月25日に友好協定を締結しました。現在まで学生の交流や棟方志功記念館とメイン・青森版画協会との間の版画の交流などが行われてきたほか、水産業においてはホタテの養殖技術に関する交流も活発に行われています。

2024年度は友好協定から30周年という記念の年を迎えます。協定締結30周年を今後の活発な交流の良い契機になるようにしたいと考えています。



メイン州バス市リバーウォーク公園

結びに

コロナ禍で実際の往来を伴う交流が長らくストップしていましたが、また自由な往来による交流が再開してきました。国際交流の取り組みを行政間交流のみならず、民間や若者の交流に広げていくことで、国際的舞台での発表の機会の提供や異文化体験を通じた国際理解の取り組みにつなげ、本県の国際的な地域づくりに貢献していければ幸いです。